

メディアへのお知らせ

小児がんの子どもたちが世界のどこにいても、治療とケアを受けられるように

<2014年2月15日ジュネーヴ発>

2月15日は、小児がんの子どもたちとその家族の強い心、勇気、そして回復力をたたえる国際小児がんデーである。SIOP(国際小児がん学会)とICCCPO(国際小児がん親の会連盟)は約2000の小児腫瘍専門医と小児がん患児/小児がん経験者とその家族を代表する小児がん親の会(88ヶ国169団体)を代表して、毎年2月15日に国際小児がんデーを開催する。

毎年、世界じゅうで250,000人以上の子どもたちに小児がんの診断が付き、90,000人が死亡していると推定されるが、全種類の小児がんで平均70%が治癒するようになったとは言え、90,000という数には愕然とさせられる。

この20年間、先進国での小児がん生存率は横ばい状態で、小児の疾患関連死亡原因のトップとなっている。成人がんでは新薬の恩恵を受けているにもかかわらず、小児がんの場合、治療に30年以上前から使われている薬剤が依然として用いられているだけでなく、受けた治療の影響により深刻な、あるいは命に係わる晩期合併症につながるリスクを抱える場合もある。

経済的に豊かな先進諸国では治癒率が80%を示すようにはなったが、開発途上国における治癒率は80%から大きくかけ離れており、基本的な治療を受ける施設が無かったり、適時な治療やケアを受けることができないために生きることができないということが珍しくない。SIOPとICCCPOは小児がんの子どもたちが一世界のどこにしようともケアを受けることができることを確約するよう、世界各国の政府に求めている。

情報の少ない環境にいる子どもたちにとって最も大きな問題は、基本的な医療と適時なケアを受けることができないことであるとSIOP会長のProf. Giorgio Perilongoは語り、「このような国々では親が医療機関に子どもを連れて行ったときには、すでに病期がかなり進行しており、可能な治療選択もほとんどできない状況となっている」と事態の深刻さを説明している。ガーナの首都アクラの小児腫瘍専門医であるDr Lorna Rennerによれば、ガーナでは、小児がんの子どもたちが直面するのは、治療施設の不足と小児がんに関する情報がほとんどないこと、そして薬剤の入手が経済的に困難であり、小児がん治療病棟の確保も難しいという問題であり、これらの問題を解決することが急務となっている。「病棟ではこれらの問題に直面している子ども、そしてわが子を案じる親の苦しみに満ちた顔をいつも見ている。同僚の医師たちは子どもたち

を救おうと、あらん限りの力を振り絞って奮闘しているが、子どもたちの大半が、診断がついたときにはすでに重篤な状態、あるいは終末期となっている。」と彼女は語った。

多くの開発途上国では、治療施設が都市にしかなく、地方に住む家族にとっては治療施設に辿りつき治療を受けることが経済的に難しいため、必要な通常ケアや医療を居住地で受けることができるサテライトとなる医療施設など、医療基幹施設を都市以外の各地にも設ける医療システムの構築が必須である。

ICCCPO 理事長である南アフリカの Kenneth Dollman は、小児がん経験者の父親でもあるが、次のように語っている。「最初の集中療法が終わると、定期的な、あるいは維持的な治療のために、それもわずか 2 時間で終わる治療のために、その都度、遠方から治療施設へ通わなくてはならなくなる。それに加えて治療費がかさみ、病院と家との往復で疲労が重なり、途中で中止せざるを得ないこともある。国家的支援があれば、保健省は、拠点となる医療施設から遠く離れたところにも医療施設を設置することができるし、そうすべきである」。このような問題の軽減を図ろうと ICCCPPO の会員は、遠方からの家族に旅費の支援をするだけでなく、治療中、家族が滞在できる、いわゆるペアレントハウスを提供している。しかし国民所得の低い国々ではこのような施設はまだない。

この度、SIOP と ICCCPPO は小児がん撲滅に関連したすべての分野で協働しようと覚書を交わした。これによって、世界中の数万人からなる小児腫瘍専門医、看護師、小児がん患児/小児がん経験者、そして彼らの親の声が一つにまとまることになり、このことは、共に協力し合って、小児がん擁護活動を先導し、世界中の、そして特に発展途上の国々に対して、小児がん関連活動を推進させるための基金を設立することを意味する。

小児がんは、他の小児疾患に見られる国情による差異はない。先進国か否かの違いとは無関係に子どもや若者に発症する疾患である。第 46 回 SIOP は今年 10 月 22-25 日の期間、カナダのトロントで開かれる。小児腫瘍に関する最新の科学的知識を交換する理想的なフォーラムであり、世界中から集まった人々が、それぞれの考え方、知識を等しく共有する現場となる。それは小児腫瘍専門医、各専門分野の医療従事者、小児がん親の会、保健医療従事者、そして支援活動家などで構成される最大の会議となるものである。ICCCPO もまた、この SIOP 会議に毎年参加している。



SIOP とは

1969年に設立された会員数1500名を超える国際的な小児がん専門医の学術会議で、小児がんの子どもや青少年に関わる問題について検討、研究する先導的組織である。ここで掲げている目標は“小児がん撲滅”であり、このことからSIOPの使命は:(1)すべての小児がんの子どもたちと青少年へ最高水準の治療とケアを提供すること;(2)会議、ネットワーク、そして医学の発展、推進によって、世界中のどこでも最先端の医療にアクセスできること;(3)小児がんの子どもや青少年が治癒を望める最善の治療法、あるいは緩和療法を受けることができるよう支援すること;そして(4)治療終了後のフォローアップを推進することである。SIOPの会長はProf. Giorgio Perilongoで、理事会によって運営され、本部はスイスのジュネーヴにある。

www.siop-online.org

ICCCPO とは

国際小児がん親の会連盟(ICCCPO)は患児・小児がん経験者・そしてその家族を代表する団体で構成されている最大の支援団体である。ICCCPOの活動目的とするところは、小児がん患児/小児がん経験者、そしてその家族が直面する短期的、長期的な問題を、家族、医療従事者が理解し、彼らを取り巻く広い社会が、診断時やその後において、世界のどこに住んでいようとも、最高の小児がん治療を受けることを確約することである。そのためにICCCPOでは世界中の小児がん患児や小児がん経験者に、最高水準のケアを受けるための資料や情報、そして経験を提供している。www.icccpo.org

お問合せ:

Patty Brower
International Services Manager
ICCCPO Head Office
c/o VOKK
Schouwstede 2B, 3431 JB Nieuwewegen
NETHERLANDS
Tel: +31 30 242 2944
headoffice@icccpo.org

Jose Julio Divino, MPH
Senior Adviser, Advocacy and Communications
SIOP Secretariat
1-3, rue de Chantepoulet
1211 Geneva
SWITZERLAND
Tel: +41 22 906 9123
advocacy@siop-online.org